

みどころいっぱい竹野海岸

① 竹野温泉 源泉



泉質はナトリウム・カルシウム塩化物泉、弱アルカリ性です。効能は神経痛、筋肉痛、関節痛などです。1,000mの深さからくみ上げています。

② 大灯籠



竹野は当時「竹野の大浜」と呼ばれ、但馬の代表的な回漕業の村として栄えました。北前船の船主が寄贈した大灯籠はそのシンボルです。

③ じゃじゃ山洞窟



海面から4~5mの位置にある洞窟で、約6千年前の海面が今より高かった時代にできたと考えられています。洞窟をつくる岩石は約2千万年前に日本海が開き始めた頃にできたくぼ地に、河川などで運ばれた石ころがたまってできた礫岩です。

④ 竹野浜



竹野浜は、環境省の「日本の渚100選」に選ばれた、白砂・遠浅の澄んだ海です。日本海の季節風や沿岸流は大量の美しい砂をこの地に運び、かつて島だった賀嶋を砂の橋(砂州)で結び、猫崎半島がつけられました。

⑤ 北前館(竹野ジオエリア拠点施設)



山陰海岸ジオパーク竹野ジオエリアの拠点施設として、観光・食・アクティビティ・イベントを発信するインフォメーションセンターと北前船の歴史・ジオの魅力を体感できるミュージアム、天然温泉、レストランのある総合施設です。
(問)0796-47-2020

⑥ 賀嶋公園周辺誕生の浦眺望



柴野栗山の碑がある誕生の浦から眺望できる波食台(棚のような場所)には、罎穴群(くぼ地にはまった石ころが波により転がってきた穴)があり、県指定天然記念物になっています。周辺では日本海形成初期にたまった砂岩や泥岩中にゾウなどの足跡化石がみられます。

⑦ 鷹野神社



誕生の浦に上陸して加島宮の祭神となった武甕槌神(たけみかづちのかみ)がこの社の主祭神。方角石や御神燈など北前船関係の遺構が数多く残っており、北前船で賑わっていた当時から残っています。周辺には御用地館や古い街並みが残っていて、昔の風情を楽しむことができます。

⑧ 御用地館



伊能忠敬が全国測量の宿として利用した住吉屋を修復した歴史資料館です。土間の囲炉裏、中庭の土蔵を利用したギャラリーを中心に、住吉大社から運ばれた大仏、柴野栗山の書などが並びます。地元竹野町出身の書道家、仲田光成氏の記念館も併設しています。(問)0796-47-1555

⑨ 諏訪神社



長野県の諏訪湖の両岸にある諏訪大社より祭神の勧請を受けた神社です。島根県で産する来待(きまち)石を使った灯籠・狛犬があり、北前船による流通を思わせます。

⑩ 大浦海岸の眺望



休暇村園地内の遊歩道から見える景観豊かな展望台です。透明度の高い大浦浜や岩礁が望めます。(山陰海岸国立公園の中でも海中公園として利用されています。)

⑪ 大浦海岸と竹野スノーケルセンター



山陰海岸国立公園の優れた自然の紹介、竹野地区の海を中心とした自然のリアルタイムな情報や海岸地形や海洋生物との関係などについて紹介しています。夏期のスノーケル教室など、海の自然と触れ合うための様々な活動を行なっています。
(問)0796-47-1932

⑫ 淀洞門



淀洞門は切浜の北端にあります。洞門は、幅24m、奥行き約40m、高さ13.8m。断層に沿って岩が侵食されてできたもの。大昔、大鬼が金棒で穴を開け、根城にした「淀の大王」ら鬼集団をスサノオが退治したという伝説が残されています。

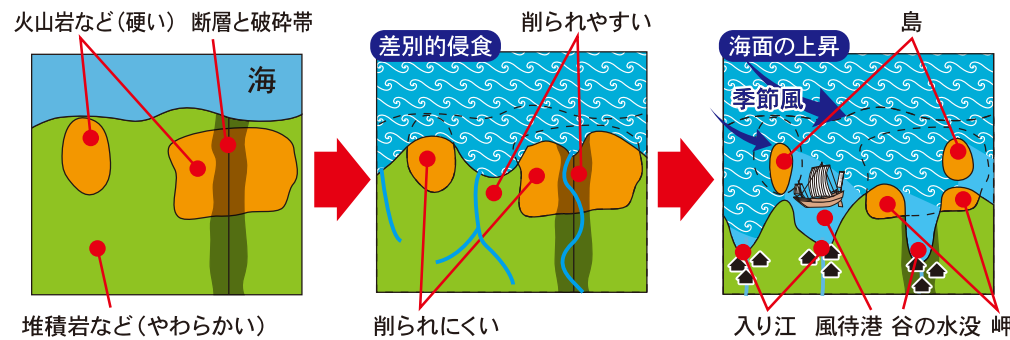
⑬ はさかり岩



海にそそり立つ2つの岩柱の間に、直径3~4mの丸い岩が挟まった奇観で、挟まっている丸い岩は、かつて洞門の天井だったものと考えられ、その後天井が崩壊し今の景観になったとみられています。兵庫県天然記念物にも指定されています。

ジオコラム①

地質多様性により生まれた複雑な海岸地形



海岸地形と岩石の分布を見ると、島や半島、岬の先端は硬い火山岩が、入り江や平坦な箇所はやわらかい砂岩や泥岩が分布していることが多いです。岩の硬さの違いによりやわらかい場所が先に削り取られ、その後の海面上昇で谷が水没し、入り組んだ海岸地形ができました。



猫崎半島先端
【火山岩(流紋岩)】



猫崎半島付け根
【堆積岩(砂岩・泥岩・凝灰岩等)】

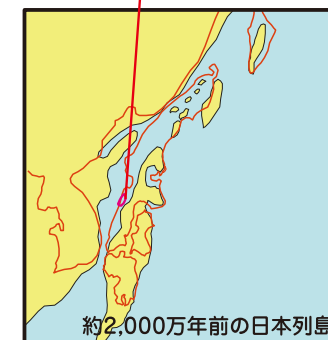
入り江や半島の風裏は、季節風を遮り、北前船の風待港や港町になった。

ジオコラム②

竹野海岸周辺で見つかる化石

猫崎半島の付け根付近では、砂や泥が固まった地層の中や表面にカキの化石やほ乳類の足跡化石を見ることができます。これらは、日本海のでき始め、大陸の縁が割れ始めた頃にできたくぼ地に住んでいた生き物たちの痕跡です。

竹野付近が位置していた場所



約2,000万年前の日本列島



ゾウの足跡化石



立木の化石

根が放射状に伸びる

クイズの答え

①地球の海面は上がったりがったりしています。昔はこの高さに海面がありました。

②沿岸流や季節風で砂がかき寄せられ、砂の橋(砂州)によって島が陸続きになりました。

③挟まることをこの地方の方言で「はさかる」といいます。大きな丸い岩が挟まっているのでこの名がつけました。

カニ料理について (問)たけの観光協会 TEL.0796-47-1080
活イカ料理について (問)北前館 TEL.0796-47-2020